

## ● 密閉式容器を使ってみよう！

さまざまな生ごみ堆肥化方法の紹介

酸素の少ない状態で働く微生物の活動を利用する方法です。密閉式の容器を使うため、虫が発生しづらいのが特徴です。また、屋内でできるため、冬でも続けることができます。分解はしないので、生ごみの量はあまり減りません。

### ！こんな方に向いています

- 家庭菜園やガーデニングをしているので、肥料や堆肥が欲しい。
- 冬でも保管場所を確保できる方。

### 《準備するもの》

- ・ 密閉式容器（10～20ℓ程度）  
底が2重になっていて、水抜きのコックがついたものが便利です。  
（雑貨店・ホームセンターなどで購入できます。）
- ・ ポカシまたは米ぬか ・ しゃもじ

※ポカシとは…米ぬかやもみ殻などをEM菌（有効微生物群）と混ぜ合わせたもの。

### 1. ポカシを入れる

容器の底にポカシ（または米ぬか）をさっとまきます。

### 2. 生ごみを入れる

よく水を切った生ごみを容器に入れ、ポカシをふりかけます（生ごみ1kgに対し50g程度）。和え物をつくる要領で馴染ませます。

### 3. 空気を押し出す

しゃもじなどを使って、生ごみを上から押さえ、生ごみの間にある空気を押し出します。容器の蓋をしっかりと閉めます。

### 4. 毎日の管理

毎日、手順2、3を繰り返します。発酵が進むと、容器の底に発酵液が溜まってくるので、こまめに取り出します。

### 発酵液の利用方法

発酵液は、水で1,000～2,000倍に薄めて肥料として使えます。週1回程度散布してください。ただし、空気に触れると悪臭が発生しやすいので早めに使うようにしましょう。

### 5. 堆肥として使う

- ・ 生ごみ処理開始から2週間ほどしたら、土と混ぜます（夏の気温の高い時期は臭いが出やすいので1週間を目安に）。
- ・ うね間に溝を掘り、処理した生ごみを少しずつ撒き、土とよく混ぜ、更に土を被せます。
- ・ プランターで使用する場合は、処理した生ごみ1に対し土4以上を混ぜ、1カ月程度おき、生ごみの形と臭いが無くなったら作物を植えます。

### 💡ポイント

- 生ごみはできるだけ細かくしておく、微生物が働きやすくなる。
- ポカシは惜しまずに入れる。特に夏場は多めに入れる。
- 容器を2つ用意して交互に使うと効率よくできる。
- この方法は、酸素の少ない状態で働く微生物の活動を利用したものである、しっかり密閉する。
- 容器の中に、新聞紙を敷いてから、生ごみを入れると容器が汚れない。
- 直射日光のあたらないところに置く。



この方法は、  
小バエの心配がなさそうね。

